

# 先の見通し

## 森信三先生からの メッセージ



愛知県立岡崎北高等学校長

祖父江 義信 氏

教育随想



平成20年12月1日

# 12月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
愛知県立岡崎北高等学校長 祖父江義信氏	
この人に聞く	2
日本体育協会公認 アスレティックトレーナー 後藤 勤氏	
羅針盤	2
井田小学校長 板倉 常治	
ふれあい	3
梅園小 渡邊 勇樹	
特集	4
自作ビデオ委員会の活動 -授業に役立つ教材を 目指して-	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
自作鶏舎の建設(昭和26年)	
この本を	8

偉大な哲学者であり教育学者である森信三先生を知ったのは、私が愛知県青年の家に勤めていた十数年前のことです。新任から二十二年間、数学の大学入試問題を解くことに熱中してきましたが、それまでと全く違う職務に就き、私の教員人生が大きく変わろうとしていたときでした。半田市の新美南吉記念館で青年の家運営協議会が開催され、資料として新書判の『森信三先生一日一語』をいただきました。帰るやいなや、登載された文言を、一つ一つ読みながら読んだのです。

『人間の智慧とは、  
一、先の見通しがどれだけ利くか  
二、どれほど他人の気持ちの察しがつくか  
三、何事についても、どれほどバランスを心得ているか  
ということでしょう。(八月三日)』

このことばをはじめとして、人生いかに生くべきかを真摯に追求する先生の姿勢に共感しました。常に腰

骨をシヤンと立てることを強調された「立腰教育」論を忘れることはないし、名著といわれる『修身教授録』をはじめとする著書から現代に甦る人間学を学ばせてもらっています。私の「心の栄養」です。先生は武豊の出身で、岡崎での新任教員研修会(昭和四十九年)と冬季研修会(昭和五十三年)の講話が著書の中に見られます。

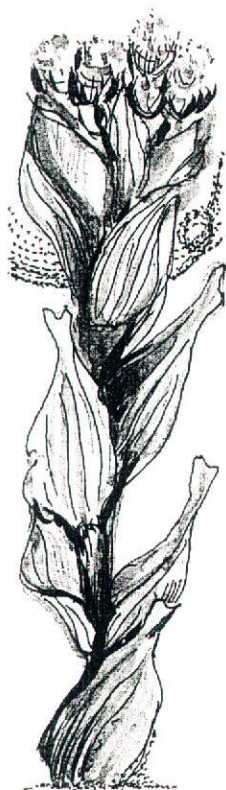
『現状維持と思うのは、じつは退歩している証拠である。(四月三日)』  
という厳しいことばも私の頭の片隅に刷り込まれていて、学校運営に大いに役立っています。

本校は創立一〇一年目、新しい学校づくりの元年ととらえ、「安住」か

ら「挑戦」へギヤを変換しようとした矢先、タイミンクよく「コスモサイエンスコース」開設と「愛知スーパーハイスクール研究校」の指定を受けました。科学的素養と国際的感覚を身につけた、将来の科学技術開発を担う人材を育成することを目的としています。講演会や大学等の研究機関と連携した様々な企画への取組が、学校全体に新たな活力の息吹を感じさせています。

生徒たちの卒業後の進路や活躍ぶりを頭に描きつつ、先の見通しを利かせた活発な教育活動を展開していきたいと思っています。

(そぶえよしのぶ)





# ふるさとシリーズ この人に聞く



## トップアスリートを 支えて

日本体育協会公認  
アスレティックトレーナー

後藤 勤 氏

「もともとは、陸上選手としてオリンピック出場を夢見ていたんです。しかし、高校二年で腰を痛め、走れない時期が続きました。いくつも整形外科や鍼灸院を回るうちに、トレーナーという仕事に出会いました。」  
トレーナーの仕事は、鍼治療やマッサージにとどまらない。けが予防のためのストレッチ、試合に出られるかがどうかの判断、復帰までの練習メニューの提案など、さまざまなかたちで競技者を支えている。「けがをして競技者としての夢は断た



れたけれども、今度はトレーナーの立場でオリンピックをめざそうと心に決めた」と、後藤さんは、トレーナーの道へ進むきっかけをさわやかに語った。  
大学卒業後、鍼灸学校に通い、日本陸連トレーナー部の委員も務める鍼灸師の家に住み込んで修行をした。二〇〇五年から、世界陸上競技選手権に日本代表トレーナーとして参加している。北京オリンピックで銅メダルを獲得した朝原選手らのトレーナーとしても、直前の合宿まで務めてきた。  
選手の表情や言葉、体を触ったときの感覚を手がかりに、マッサージの仕方や治療方針を決める。競技種目によって使う筋肉は異なるし、個人差もある。マッサージ一つとっても、非常に繊細で感覚的な要求が選手からあるそうだ。  
「専門的な知識を持っている選手の要望にきちんとこたえられるか、いつもプレッシャーを感じています。」

日本のトップアスリートの心身を支える一方、勤務している岡崎の鍼灸院では、小中学生の治療も行う。「小中学生は、また別の難しさがあります。彼らは、どこがどのように痛いのか、言葉でうまく説明できませんから。」

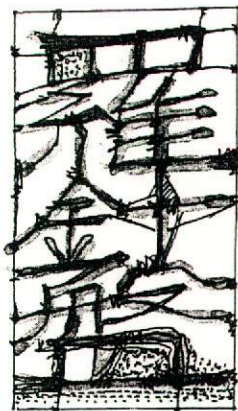
だからこそ、神経を研ぎ澄まして子供たちの心の声に耳を傾ける。

トップレベルの大会で、トレーナーとして身につけた判断力や技術を、自分が生まれ育った岡崎での治療に生かしていきたいと笑顔を見せる。運動部を指導する教員に、アドバイスをいただいた。

「急性のけがは、最初の処置が、その後の回復具合を左右します。まずは、冷やして休めること。また、成長期の子供は骨折しやすいので、大丈夫と思っても、整形外科で受診し、レントゲン検査を受けることを勧めます。」  
地域に、けがや故障で苦しむ競技者を専門的にサポートできる人がいることを幸せに感じた。

後藤さんの夢は、オリンピック。ロンドン大会では、日本代表トレーナーの候補者として名前が挙がっている。四年後への熱い思いが伝わってきた。

氏名 ことう つとむ  
生年月日 昭和四十九年五月十九日  
住所 岡崎市上六名



## 教師の言語活動の充実を

井田小学校長 板倉 常治

三月に告示された学習指導要領では「言語活動の充実」が盛り込まれた。国語では「伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い」ということが目標となっている。さらに中学一年の内容を見ると、「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣い」が求められている。

この指導要領に記されているとおり各学校でことが運んでいくことを期待している。だが、教師の言語感覚、特に「話し方」はどうだろうか。私は教師こそ、この点を重視してもらいたいと思う。それは、右に記した中学一年の内容から逸脱した話し方をしてる例を時々耳にするからである。

若いころ、普段の授業を録音した





## 最高の応援賞

梅園小 渡邊 勇樹

校内水泳大会六年生、五十メートル自由形。二十五メートルのターンを終えた後、A男の息つきは目に見えて苦しそうになってきた。二度、三度と立ち、必死にゴールを目指す。そんな姿に、「A男、A男」と、クラスのみんなが手拍子で大声援を送った。結果は、四クラス中四位だった。それでも、A男は満足げな表情で、プールから上がった。笑みの先にはクラスのみんながいた。

水泳大会一か月前のこと。水泳大会の選手決めをしていたが、黒板の「五十メートル自由形」のところだけが空欄のままだった。「だれか、この種目にチャレンジする者はいないか。」

私はそう呼びかけた。教室は静まった。しばらくすると、「先生、立っっちゃうかもしれないけど、僕がやります。」とA男が手を挙げた。私は驚いた。彼は、泳ぐフォームはよいのだが、持久力がなく、二十五メートルのターンをするのがやっとなのである。ましてや、普段、まじめだが失敗を怖がり、消極的なことが多い。そんな彼が、吹っ切るように、五十メートル自由形にチャレンジすると言った。A男の心意気に、私もクラスのみんなも拍手を送った。

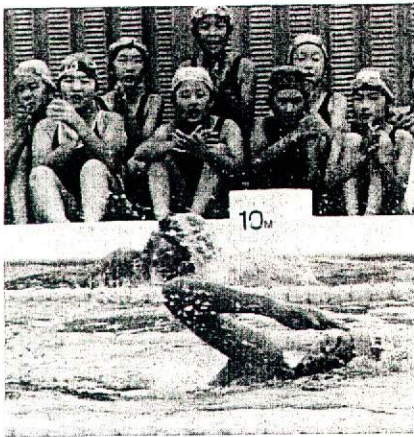
大会一週間前。クラスの応援を考えたという声が上がった。これは団結のチャンスである。私は「自分の応援が、仲間を勇気づける。そして、仲間の応援で、自分が勇気づけられる。仲間って最高だ」との思いが持てる子供たちに育ってほしいと考え、じっくりと話し合いをさせた。話し合いの結果、応援歌を歌うこと、名前を呼んで勇気づけることが決まった。休み時間に応援の練習をする子も見られるようになった。

迎えた大会。精いっぱい泳ぐクラスメイトに、全力で応援する子供たちがいて、大会は盛り上がった。A男の出場する五十メートル自由形となった。ターンの後は、やはり苦しそう。A男が立った。しかし、応援は止まらなかった。その応援は、A

男の体を前へ前へと進めるかのように見えた。やっとの思いで五十メートルにたどり着いた。結果は最下位でも、A男の表情に曇りはなかった。クラスの子を見渡しても、一人として残念な表情をしている者はいなかった。表彰式では、「応援賞」がもらえ、クラス全員で喜び合った。

翌日のA男の日記には、「ぼくが泳いでいるとき、みんなの応援が聞こえました。途中で立っっちゃうけど、最後まで聞こえてきました。とても力になりました。ほくも、頑張っている人を応援しました。クラスにとって最高の「応援賞」でした」とあった。

大会を終えた今も、教室にはA男のチャレンジ精神に負けじと、お互いを高め合い、励まし合う子供たちの姿がある。



ことがある。すると、それまで気が付かなかったことが分かってきた。無意味な発言、繰り返しの発言などと共に、授業を展開していくうえで、発問の表現の仕方、間の取り方など、多くの反省すべきことが見えた。

教師に限らず、人には話すときの癖がある。頻繁に同じ語句を使用する人がいる。話の区切りに「え〜」とか「あのう」という発声を無意識に挿入する人は実に多い。この傾向は、多くの子供にも見られる。

これらを含めた教師の言語感覚を磨くため、本校では毎日の職員朝礼で当番によるスピーチを実践している。話題は自由であるが、笑いがあり、すてきな話であることが要求されている。おもしろくない内容の話でもおもしろく話さないで、全員の子供に理解させることは難しい。教師は、この話術をもっと研究すべきである。私も毎日話す。それは、「教師が朝から笑うことにより、心に余裕が生まれる。余裕のある気持ちで子供に向かえば、必ず良い教育ができる」という信念に基づいたものである。

教師たるもの、もっと「聞かせる言語活動」を意識して取り組みたいものである。



# 自作ビデオ委員会の活動



～授業に役立つ教材を目指して～

▲ 現在制作中の「酒蔵を守る～女性蔵人の挑戦～」の撮影風景

十二月、今年度も、五点の自作ビデオ教材と二点のマルチメディア教材が完成する。これらの作品は、一月の愛知県自作視聴覚教材コンクール、六月の全国自作視聴覚教材コンクールに出品される。

ビデオの制作は、自作教材制作委員会（自作ビデオ委員会）が行っている。組織は、現職研修委員会学習情報部が中心となり、社会科学部、理科部、英語部で構成されている。学習情報部から四名、各教科部から三～四名のメンバーから成る班は、全部で七つある。

昭和五十年、全国自作視聴覚教材コンクールに初入選してから、毎年のように作品が入選している。その裏には、時間をかけてのコンテ（ビデオのシナリオ）検討会議や、時には早朝の撮影などの活動もある。それらは、質の高い映像教材を提供したいという情熱に支えられたものである。コンテを考えるときは、授業の単元計画のように、視聴する子供たちの意識の流れを重視する。二〇一一年、現在のテレビ放送が地上デジタル放送に切り替わる。ハイビジョンテレビの普及に伴って、自作ビデオ教材も作品のハイビジョン化が進められている。早速今年度から、ハイビジョン映像の作品づくりが始められた。美しいハイビジョン映像がビデオ教材になるのが楽しみである。また、数年前から編集作業にパソコンが導入されている。ビデオ編集を切り貼り作業のように簡単に行うことができるため、作業能率の向上は絶大である。

これからも、授業の流れを見据えたビデオ教材や地元と深くかかわった題材が求められる。岡崎のすべての教室で自作ビデオ教材が活用されることを期待している。

## 全国自作視聴覚教材コンクールの表彰歴

自作ビデオ委員会が受賞した数  
(昭和50年度から平成20年度まで)

- ・ 文部科学大臣賞      16点
- ・ 優秀賞                10点
- ・ 入 選                 41点

近年の文部科学大臣賞受賞作品

- 平成16年度 「日本の灯りを守る－和ろうそく作り－」(小4社会)
- 平成17年度 「水の大冒険－岡崎の水の秘密－」(小3・4社会)
- ※マルチメディア作品
- 「石にかける思い－女性石工の挑戦－」(中3社会)
- 平成18年度 「矢師－新たな時代を生き抜く職人の姿－」(中3社会)
- 平成19年度 「心の扉を開く福祉－生活挑戦者と共に生きる－」(中3社会)
- 平成20年度 「自然が育てるおいしいお茶－宮崎のお茶作り－」(小3社会)



## 自作ビデオ教材ができるまで

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度制作予定の作品の最終検討</li> <li>・学習情報部の班員決定</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科・理科・英語部からの班員決定</li> <li>・作品の分担決定</li> <li>・各班によるプロット（作品の大まかな流れ）検討会</li> <li>・自作ビデオ委員会全体によるプロット検討会</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班によるコンテ検討会</li> <li>・撮影、取材の計画、取材先との打ち合わせ</li> <li>・撮影、取材開始</li> <li>・全国自作視聴覚教材作品コンクール出品</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮編集開始</li> <li>BGMの検討、テロップの制作</li> <li>・撮影、取材</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮編集終了</li> <li>・必要に応じて撮影、取材</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自作ビデオ委員会全体の仮編集作品検討会</li> <li>・コンテ再検討</li> <li>・必要に応じて撮影、取材</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本編集開始</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会全体による作品検討会</li> <li>・作品の手直し</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクール出品準備</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県自作視聴覚教材作品コンクール出品</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の作品候補検討会</li> </ul>
3月	



▲コンテ検討会議



▲パソコンを使ったビデオ編集作業

▶毎年改訂され配布される『視聴覚教材・機器利用の手引き』。自作ビデオのタイトルリストや利用方法などが紹介されている。



## 利用者の声

佐渡英彰（連尺小）

5年社会科「農業」の学習では「水耕栽培のトマト作り」を、「水産業」の学習では「三河湾のクルマエビ漁」を利用しました。水耕栽培や栽培漁業などの新しい工夫について学習することができました。学ぶべきことがとても分かりやすく構成されており、子供たちも真剣な眼差しでビデオを視聴していました。「地元の映像であること」「岡崎の先生たちが作ったこと」を子供たちに話すと驚いていました。

<児童の感想>

・岡崎ではせまい土地を利用し、水耕栽培でトマトを育てているなんて初めて知り、びっくりしました。すごい工夫だなと思いました。  
・「愛知県の魚」がクルマエビになるほど、エビ漁が盛んだなんて知りませんでした。夜の漁はたいへんそうでした。栽培漁業の仕組みがよくわかりました。

鈴木圭太（甲山中）

中学1年生の理科「音の性質」の導入場面で「花火～その燃え方を探る～」を利用しました。花火が打ち上げられ、火花が散った後、少し遅れて音が聞こえてくることに、生徒たちは気づくことができました。学習単元の導入段階において自作ビデオを用いたことにより、生徒の学習意欲を高めたり、意識を掘り起こしたりすることに有効だったと思います。

<生徒の感想>

・音がこんなに遅れて聞こえてくるとは思ってもいませんでした。どうして、火花が見えてから、音が遅れて聞こえてくるのか、これから調べていきたいです。  
・岡崎の花火大会に行ったときはあまり音が遅れて聞こえませんでした。でも、今日見たビデオでは音が遅れて聞こえてきました。とても不思議に思いました。



# お知らせ



## ●海外研修報告

平成二十年度岡崎市教員海外研修として、十月二十日より二十七日までの八日間、三名でニュージーランドを訪問した。保育園、小学校、中学校、大学など、六か所を視察した。

### ①教育制度と学校運営

ニュージーランドの義務教育は六歳から十六歳までの十一年間で、日本より二年長い。また、四学期制を採用している。それぞれの学校は、校長と教職員・父母・生徒の代表から構成されるBOTと呼ばれる学校理事会により運営されている。BOTは、学校のカリキュラムや予算、施設管理、教員の採用など、学校経営にかかわるすべての決定権を持っている。

### ②初等教育

ニュージーランドの小学校は、六年間プライマリスクールで勉強し、卒業後二年間インターメディアイトスクール（中間学校）に通う場合と、十三歳までフルプライマリスクールに通う場合とに分けられる。

この国では、通常、五歳の誕生日の翌日から小学校へ入学する。子供によって入学する時期が違うため、低学年では、一クラス十八人以下という、一人一人の子供に目が行き届くような少人数の編制となっている。

### ③個に応じた指導

指定された教科書はなく、教師が子供たち一人一人の個性や能力に合わせ、学校にある膨大な資料の中から、テキストを選定している。そのた



研修者 池田芳浩 (小豆坂小) 金子 浩 (福岡中) 佐渡明美 (矢東小)

め、同じクラスの中でも、子供によって学習しているテキストが違う。基本的な学習形態はグループ学習で、能力別になっていることが多い。子供たち自身は、自分が今どの段階であるかを把握しており、目標を持って取り組めるような工夫がなされている。また、特に個別指導が必要な子供のクラスがあったり、逆に能力の優れている子供たちのための特別授業が組まれていたり、個の能力や意欲に合わせたきめ細かな学習形態がとられている。

## ●中学生姉妹都市 (ウツデバラ) 交流

四都市の最後であるウツデバラ市使節団が出発したのは、十月二十一日(火)の朝のことだった。一行は、市役所西庁舎で生徒の保護者の方々に見送られ、元気にスウェーデンへと旅立った。

ウツデバラ市の前に立ち寄った北緯六十度のストックホルムは、太陽が低いために人影が長く、街全体が黄昏色なまがれをしていた。王宮やノーベル賞晩餐ばんさん会場などを見学し、スウェーデンの歴史や文化に触れることができた。

いよいよウツデバラ市からの使節団のみなさんとの再会の日。九月に日本で別れて以来、一か月ぶりの再会は、とても感動的なものだった。旧市庁舎に着くと、ウツデバラの中学生や保護者、市の関係の方々や先生方に温かく迎えていただいた。

訪問校のアスペルド中学校は、一年生から九年生までが、同じ敷地内にある小中併設の学校で、幼稚園も隣接されて

いた。

生徒たちは、ホームステイをしているクラスメイトと同じ授業を受けた。授業内容は、家庭科や理科、第二外国語(フランス語・ドイツ語・スペイン語から選択)などであった。体育の授業は、学校から少し離れた所にある施設へ移動し、温水プールで行われていた。多くが、個々の進度によって学習している内容が違いう、個別指導型の授業だった。

十月二十七日(月)、ウツデバラ市と岡崎市の姉妹都市提携四十周年記念式典が市立ボースレン博物館で行われた。柴田紘一市長、江村力教育長と共に参加した記念式典や、「雪見灯籠」の除幕式、歓迎夕食会など多くの素晴らしい時間を過ごすことができたことも、今回の使節団員にとっては思い出深いものとなった。

共に学び共に過ごしたウツデバラの日々が、言葉や文化の違いを越えた深い友情を育んだ。それは、互いの別れの涙が物語っていた。



● 岡崎市教育委員

- 委員長 畔柳美奈子
- 同職務代理者 平野 有行
- 委員 大原 憲一
- 委員 櫻井 敬子
- 教育長 江村 力

● 表彰

- ◆第三十九回ジュニアオリンピック陸上競技大会
- クラスB走幅跳
- 二位 城北中二年 浅井真子

- ◆「原子力の日」記念・第三十三回中学生作文コンクール
- 日本原子力研究開発機構理事長賞
- 甲山中二年 鈴木崇造

- ◆最優秀学校賞 甲山中学校
- ◆第四十一回おかねの作文コンクール
- 日本銀行総裁賞
- 甲山中二年 鈴木崇造

- ◆最優秀学校賞 甲山中学校
- ◆第五十六回統計グラフ全国コンクール
- 入選 竜美丘小六年 長嶋遙奈
- 竜海中三年 稲垣香奈
- 葵中三年 浅野晶子
- 北中二年

- 辻村慎志 望月建佑
- 米田 優 早川みゆき
- 佳作 竜美丘小六年 柿本麻菜美
- 広幡小五年 鈴木大将
- 和崎 皓 戸柱公希

- 三島小三年 野村怜生
- 竜海中一年 松井優佳
- 南中一年 辻 成美
- 新香山中三年 田口貴美子
- 長坂奈津美

※県コンクールでは、岡崎市から、金賞に二十点、銀賞二十一点、銅賞に二十一点が入選。

- ◆第二回ビルメンこども絵画コンクール
- 銀賞 常盤東小四年 佐々木陽向

- ◆第一回辰野千壽教育賞
- 優秀賞 矢作北中教諭 天野幸輔

- ◆第五十一回中部日本吹奏楽コンクール
- 文部科学大臣奨励賞(最高賞)
- 竜海中学校
- 新香山中学校

準優勝



▲中部日本吹奏楽コンクール(竜海中)

- ◆第四十三回CBCこども音楽コンクール中部決勝大会
- (重奏の部)
- 最優秀賞 千万町小学校
- (合奏第一の部)
- 最優秀賞 城北中学校

- ◆第四十三回CBCこども音楽コンクール ※は中部決勝大会出場
- (合唱の部)
- 優秀賞 矢作東小学校※
- 矢作南小学校※
- 矢作北中学校※
- 六ツ美北中学校※
- 竜海中学校
- 根石小学校
- 大樹寺小学校
- 三島小学校
- (重唱の部)
- 五重唱
- 竜海中学校※
- (重唱の部)
- 七重唱
- 六ツ美北中学校※
- (重奏の部)
- 優秀賞 千万町小学校※
- (合奏第一の部)
- 優秀賞 城北中学校※
- 優秀賞 城北中学校※
- (弦楽九重奏の部)
- 優秀賞 城北中学校
- (管楽合奏の部)
- 優秀賞 竜美丘小学校※
- 岩津中学校※
- (サクソフォン四重奏の部)
- 優秀賞 岩津中学校※

- (混成十重奏の部)
- 優秀賞 岩津中学校※
- ◆読売新聞第五十八回全国小・中学校作文コンクール 愛知県の部
- 最優秀賞 矢作東小一年 鈴木崇也
- ◆第四回あいち子ども短歌コンクール
- 特選 竜海中三年 鈴木千晶
- 中部善意銀行賞
- 大雨河小二年 櫻井汐音
- ◆税に関する作品コンクール (習字の部)
- 愛知県納税貯蓄組合連合会長賞
- 美合小六年 鴨川由依
- ◆「子とともに ゆう&ゆう」
- 第四十三回作文コンクール
- 最優秀賞 美川中二年 松澤仁志
- ◆第五十二回愛知県学生科学賞
- 最優秀賞 南中一年 羽根渕高弘
- 愛知県教育委員会賞
- 読売新聞社賞
- 竜海中三年 藤原 栞
- 優秀賞 愛知県教育委員会賞
- 竜海中二年 山本颯太
- 愛知県科学教育振興委員会賞
- 東海中二年 本多啓亮
- 新香山中三年 嶋田さつき
- ◆第十五回愛知県中学生力ヌー大会新人戦
- 男女総合優勝 新香山中学校

- 男子総合優勝 新香山中学校
- 女子総合優勝 新香山中学校
- ◆第四十一回愛知県剣道段別選手権大会
- 二位 矢作北中二年 水橋謙志郎
- ◆第五十七回愛知県中学校駅伝大会 (男子の部)
- 優勝 六ツ美北中学校

- 第三位 矢作中学校
- 第六位 甲山中学校
- 第七位 葵中学校
- 第九位 美川中学校
- (女子の部)
- 第八位 竜海中学校
- ◆第五回徳川家康公文コンクール
- 最優秀賞(徳川賞) 梅園小六年 加藤絃玖子
- 優秀賞(家康賞) 附属小一年 山本峰広
- 緑丘小六年 名倉佑朔
- 附属中三年 有松瑞穂
- ◆第三十四回岡崎市小中学校作文コンクール
- 最優秀賞 六名小五年 河合春香
- 甲山中二年 鈴木崇造
- 優秀賞 矢作南小三年 長谷部航
- 三島小四年 宮坂真成
- 竜海中一年 近藤辰哉
- 竜海中三年 大屋 充

- ※全国大会出場



・カ  
ツ  
ト  
河  
合  
中  
南  
野  
薫

# 自作鶏舎の建設

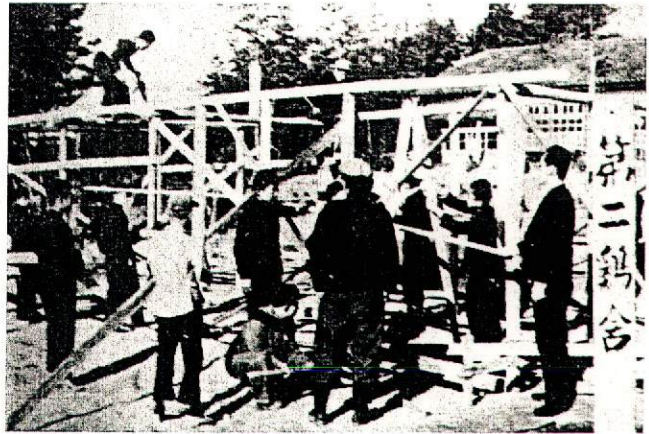
(昭和26年)

写真提供：葵中学校

写真は、昭和二十七年に発行された葵中の「建設―学校を育てゆく生徒の記録」の表紙を飾るものである。学校が、国立岡崎種畜牧場の北東丘陵地の一角に建設され、校庭に生徒たちが鶏舎を作ったときのものである。

戦後の教育は、「生産教育」や「産業教育」が重点的に進められ、葵中では全校活動として、農耕・飼育、木工・調理などに力が入られた。設計図も生徒が描き、学区の方の力を借りて鶏舎・兎舎・禽舎・理科教材池などが、次々にできあがった。

草創期の葵が丘には、学校建設の槌音や生徒の歓喜の声がこだましていたことがうかがわれる。



- \* 一日江戸人 杉浦日向子 ￥460  
新潮文庫
- \* 戦後教育で失われたもの 森口 朗 ￥714  
新潮新書
- \* いまどきの「常識」 香山 リカ ￥735  
岩波新書
- \* まぐろ土佐船 齊藤 健次 ￥1,575  
小学館

\* 自分の品格 渡部 昇一 ￥1,470  
三笠書房

本書は、古今東西の著名人の具体的事例をもとに、品格作りについて述べている。その中で筆者は、「できない理由探しを押さえ、志を高く保ち、諦めずやり遂げること」を第一に挙げている。これを通し、一芸に秀でるまで押し上げると「品格ある顔立ち」になるとも言っている。また、逸話を多く読むことや、自分のよい姿を思い浮かべてそれに沿って行動すること等、自分自身を磨いていく上で、役立つヒントが数多くある。筆者の深い学識が溢れた一冊である。

常磐南小 鈴木 正明

落ち葉が朝の通学路を彩る。吐く息もいつからか白さを増している。今年もあと一か月。子供たちにとって、どんな一年だったのだろう。「おはようございます。」

明るいあいさつが朝日を浴びて金色に光る。いつから声変わりしたのか。その成長がたまたまなくうれしい。

「信用・信頼」を取り戻すためには、何倍もの時間とこれまで以上の努力が必要である。

今年には数々の偽装食品や混入事件が起き、日本の「食」への不安がおおいに高まった。師走になり、スーパーの食品売り場で商品を手にとって、じっと考える時が増える。



赤い葉のポインセチア。メキシコ、中部アメリカが原産のこの観葉植物は、温室に入れると緑の葉が赤く変わるのでさうだ。クリスマス用の鉢植えとして人気が高い。

実際、買い求めた鉢を一つ置くだけで、部屋の雰囲気華やか。窓際の彩りを染しみつつ、一年の出来事を振り返る。

すべては授業につながっていく。自作ビデオ委員会の仕事は、高品質な映像を追い求めるだけでなく、子供の思考を意欲した、まさに授業づくりそのものである。

毎年、全国自作視聴覚教材コンクールで入選の評価をいただいていることは、岡崎教員の誇りである。